

## 2025年度 決算説明会 質疑応答（要旨）

### **Q1) 旅客事業について、足元の需要動向と単価の見通しを教えてください。**

#### A1) [国際旅客]

- ・ 北米線を中心にマーケット全体の供給量が絞られる一方で、訪日客体を中心として足元の需要は堅調であると見込んでいます。
- ・ この需給環境により、燃油サーチャージを除いた第1四半期のイールドは前年を上回って推移する見通しです。

#### [国内旅客]

- ・ 足元の需要は非常に堅調であり、前年を上回って推移しています。
- ・ また、新運賃体系の導入や、直前の高単価需要を確実に獲得する精緻なレベニューマネジメントにより、単価は前年を上回る見通しです。

### **Q2) 今後の燃油価格高騰に対して、具体的な対応策はありますか。**

- #### A2)
- ・ 収入面では、燃油サーチャージのテーブル上限改定や、燃油市況反映の1か月前倒しをすることで、コスト上昇を早期にオフセットできる体制を整えました。ただし、急激な価格上昇による需要減退を避けるため、価格弾力性を考慮しながら、最適なバランスで運賃設定をコントロールします。
  - ・ 費用面では、即効性のある管理可能費を中心に緊急コスト削減を決定しています。また、平時より、国内線の燃油は3年前から均等取得によるヘッジを実施しており、今年度も既に9割弱のヘッジを完了させ、価格変動の影響を抑制しています。
  - ・ 加えて、政府による補助金についても継続的に協議を行っており、こうした支援策と自社の機動的な対応を組み合わせることで、収支への影響を最小限に留める方針です。

### **Q3) 中東情勢による業績影響をどのように見積もっていますか。また長期化などへの対応方針も教えてください。**

- #### A3)
- ・ 2026年度の利益計画は、中東情勢の緊迫化に伴う一時的な燃油価格の高騰を織り込み、収支影響の抑制を図りながら成長投資を実行していく計画です。
  - ・ 今後、さらなる下振れリスクが生じた場合には、即効性のあるコスト対策、投資計画の見直し等を含めたリスクマネジメント体制により、機動的に対応していく方針です。

**Q4) 国際貨物事業において 2026 年度のシナジー効果はどの程度を見通していますか。**

- A4) ・ 中東情勢による影響を除いた場合、2026 年度は 200 億円程度の NCA の統合シナジー効果を見込んでいます。
- ・ シナジー効果の内容は、日本＝欧米と日本＝中国アジアにおける生産量のバランスの改善です。NCA の大型フレイターを欧米路線へ再配置し、中国アジア線は ANA のネットワークを活用する最適化を図ることで、好調なアジア発北米向けの荷物をより効率的に獲得し、増収効果を創出していきます。

**Q5) 中東情勢など外部環境の変化を受けて、どのようなビジョンや戦略を持っていますか。**

- A5) ・ 今回の中東情勢の影響により、世界的な旅客流動に大きな変化が生まれました。中東キャリアの供給制約等に伴い、日本-欧州間の直行便需要が増加するなど、新たな需要の動きが可視化されたと認識しています。
- ・ こうした需要動向の変化を分析し、今後のマーケティング戦略やネットワークの展開へ着実に反映させていく考えです。

以上